

千里地理通信

関西大学地理学・地域環境学教室会報 第92号

Newsletter of Department of Geography and Regional Environment, Kansai University

Contents

Page 1 ……

巻頭随想

インドでのショッピングモール調査
土屋 純

Page 2 ……

卒業生だより

地理学専修を経て
松田治樹

Page 3 ……

日帰り巡検報告

奈良市・大和郡山市日帰り巡検
釜ヶ谷 遼

Page 4-5 ……

研究ノート

北陸新幹線敦賀開業に伴う観光への効果と沿線地域の変容—福井県を中心に—
浅野祐斗

Page 6 ……

実習調査報告

福島県会津若松市での実習調査
上野桜祐・中所こまち

Page 7 ……

大学院生の研究業績

Page 8 ……

同窓会事務局ニュース
2025年度教室行事予定
関大地理同窓会
令和6年度会計報告

Page 9 ……

教室だより

Page 10 ……

随想

私と関西大学のご縁
于 亜

Page 7-9 ……

2024年度

卒業生・修了生からのひと言

インドでのショッピングモール調査

土屋 純

これまで日本だけでなく南アジアをフィールドに、都市・経済地理学者として流通産業を研究してきた。流通産業が成長することで都市の構造や生活環境がどのように変貌するのか検討している。ショッピングモールが開発されるといふ同じ現象でも、日本とインドではその状況が異なる。この違いから日本やインドの都市構造の相違を解明できると考えている。

最初にバングラデシュに訪れたのは名古屋大学大学院時代で、名古屋大学の溝口常俊教授の定期市研究のサポートであった。前任校の宮城学院女子大学に赴任した後も、バングラデシュを中心に、定期市の実態だけでなく、急激に拡大していた商店街を調査してきた。2009年には初めてインドに渡航し、ウッタルプラデシュ州の定期市を調査した。2011年には、日本文化研究機構「現代インド地域研究」の広島大拠点の研究分担者に加えていただいたことをきっかけに、デリー首都圏のショッピングモール調査を行うようになった。2011年、2012年、2013年、2018年、2024年にデリー首都圏を事例に、郊外開発におけるショッピングモールの立地とテナントミックスについて調査してきた。

1990年代以降のインドでは、外資系企業の参入規制が緩和されることで、自動車産業やIT産業が発展した。大都市圏の郊外地域では、住宅地や工業団地だけでなくオフィス街が開発されていき、インド経済成長の最前線となっている。そうした開発地域を中心にショッピングモールが建設されていき、外国人人口や富裕層人口だけでなく、拡大している中間層人口を顧客として取り込んでいき、インドの豊かな消費生活を支える1つとなっている。

2011年段階ではショッピングモールの拡大期で、インフラ整備で工事が続いているデリー郊外のグルガオンに出かけ、ショッピングモールを観察した。インドの場合、日本のように商業資本が専門的にモールを開発するのではなく、住宅やオフィスと一体的に開発されることが多い。その結果、ショッピングモールのフォーマットが確立されておらず、核店舗がないもの、ビル型で雑居ビルのような形態のものなど、さまざまなタイプのものが開発されてきた。そうしたモールに入居しているのは世界的なブランドが中心で、ファッション、スポーツ、家電などがみられる。大規模なものにはシネマコンプレックスやフードコートがあり、週末になると多くの顧客で賑わう場所となっている。

2024年3月に久しぶりにデリー首都圏に出かけることができた。2010年代と大きく変わったのは、ショッピングモール間の格差が拡大したことであり、大規模なものを中心としてテナントミックスが充実する一方、中小規模のものは空きテナントが増えていた。テナント構成の

変化では、集客力のある大規模なモールには世界的なファストファッションが入居するようになった。ZARA、H&MやUNIQLOなどの存在感が高まっている。

UNIQLOを展開するファーストリテイリングは、2019年よりインド市場に参入した。ファーストリテイリング社のプレスリリースによると、2019年に2店舗、2020年に4店舗、2022年に2店舗、2023年に2店舗出店し、2023年段階でデリー首都圏に7店舗、北インドの都市であるラクノウ、チャンディガルにそれぞれ2店舗、ムンバイに1店舗を立地させている。デリー首都圏では、DLF Mall of India、Ambience Mallなど主要な大規模モールに出店しており、複数階ある大規模なテナントが中心である。独自の素材を活かした着心地の良い衣料がインド市場で受け入れられるか、大きな課題となっている。

なお、インドのショッピングモールでは、古いもの、規模の小さなもの、立地条件が悪いもので空きテナントが多くなっている。シャッターが降りていて、日本の地方都市にある商店街のようである。日本の場合、モールを管理する会社がテナント管理を徹底していて、集約力のないテナントを撤退させて新たなものを誘致することが多く、全体として空きテナントが少ない。かつてインドを代表する大規模モールのThe Great India Placeは、近隣にさらに大規模なMall of Indiaが開発されたことにより、空きテナントが多くなってしまった。空きテナントが大半になっていて廃墟のように見える一角もある。このような空きテナントが目立つモールでは、状況を改善する努力が見られない場合がほとんどで、これまでリニューアルされ、活況を取り戻したモールを発見したことがない。インドのショッピングモール業界では、ある意味で“諦めが早い”と言える。

インドは2000年代以降、急激な経済成長を遂げており、上位の大都市圏を中心として豊かな郊外地域が開発されてきた。その一方で、雑然とした街並みで貧困層が多い地域も残されている。空きテナントが多いショッピングモールのように、郊外の開発競争の中で敗れていくものも見られる。このような格差が拡大しつつ成長している状況から、近年におけるインドのダイナミズムを感じることもできる。

(つちや じゅん：本学教授)



Ambience Mall (デリー・ヴァサントクンジ) に入居するUNIQLO

地理学専修を経て

松田 治樹

私は2024年に関西大学文学部地理学・地域環境学専修を卒業後、アルミ部品メーカーに勤めております。私は開発生産技術課という部署で自社アルミ製品の量産のための自動製造ラインやアルミ部品への加工のための機械などの設計、組み立て、導入など、自社で使用する機械や設備関係の設計から導入まで一貫して従事しております。

私は2020年4月に関西大学に入学しましたが、当時、2019年1月ごろから流行した新型コロナウイルスのため入学式がありませんでした。さらに春学期はすべてオンライン授業で私が大学に通い始めたのは秋学期からでした。そんな制限された環境の中、私は地理学・地域環境学専修に進むことを決めました。私が地理学・地域環境学専修に進んだ理由は単純で自然が好きだからです。大学においても1年生から気象やエネルギーなどの環境に関する授業や地誌学や歴史に関する授業を取っていました。

専修では巡検や測量、実習調査など実践的に学べる機会が多く、勉強嫌いの私でも楽しく学ぶことができました。実習調査ではアンケート調査のためのアポ取りや現地調査のための事前準備、現地での聞き取り調査など、様々な経験が卒業論文の執筆にとっても役に立ちました。私は黒木貴一教授のもと、「紀の川流域における避難所と避難経路の安全性－岩出市を事例に－」というテーマで卒業論文を執筆いたしました。岩出市は和歌山県和歌山市の東に隣接した市です。私は山間部、平野部、都市部の代表3地点を設定し、実際に歩いて避難所周辺の地形条件を見て周ったり、避難所周辺道路の交通量調査を行ったりと現地での調査が多かったです。自宅から車で片道2時間半を何回も往復したり、車中泊をしたりと大変でしたが今では良い思い出です。

大学を卒業しても自然が好きな気持ちは変わらず、今年は夏に長野県松本市の標高1500mにある上高地に行ったり、秋には兵庫県朝来市にある竹田城跡から雲海を見ることができたり、他にも様々な自然に触れることができました。1番感動したのは上高地の自然です。私は朝6時に大正池から歩いて河童橋まで向かったのですが、大正池の奥に見える霧がかかった焼岳、遊歩道の隣を流れる梓川、河童橋から見える岳沢湿原など、すべての自然に感動しました。みなさんにも是非人生で一度は行って頂きたいおすすめの方法です。

上高地の地形について気になったので調べてみると、上高地は元々深いV字谷だったが、約12000年前に火



写真1 大正池から見た焼岳

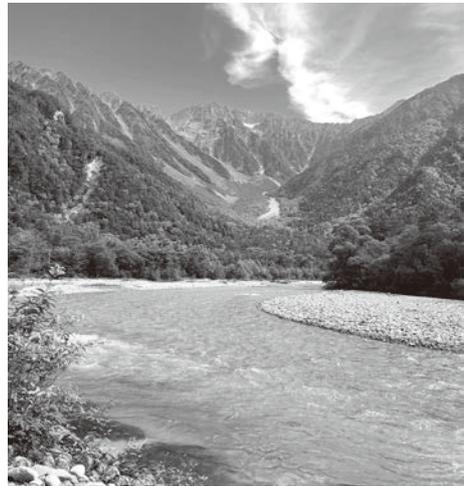


写真2 河童橋から見た梓川と岳沢湿原

山の噴火によって山体崩落が起こり、谷を流下していた梓川をせき止めてしまいました。そこに巨大なせき止め湖ができ、長い年月をかけて湖が埋め立てられていき、現在の平坦な上高地の原型が作られました。せき止め湖は約5000年前に地震によって決壊して梓川下流の松本市に扇状地を形成し、上高地は現在の姿になったそうです。

自分が実際に訪れた場所を調べてみるとより愛着が湧き、また必ず訪れたいと思いました。私が卒業論文の研究対象地域を悩んで和歌山県岩出市にしたのも和歌山県の緑と海が好きだからです。みなさんも卒業論文のテーマ決めや研究対象地域の選定に悩むことがあると思います。その時は実際に現地を見て自分のお気に入りの場所などを見つけて研究すると卒論が楽しくなるかもしれません。残りの学生生活、自分を大切に、楽しんで過ごしてください。

(まつだ はるき：旭工精株式会社，2024年3月卒業)

■ □ 日帰り巡検報告 □ ■

奈良市・大和郡山市日帰り巡検

釜ヶ谷 遼

2024年9月29日に、奈良県奈良市及び郡山市にて日帰り巡検が実施されました。本巡検では二回生が中心となって巡検予定地の資料を作成して現地で案内を行い、そこに各先生方や、前年まで本大学の地理学・地域環境学専修で教鞭をとられていた野間先生が、補足説明をしていただきました。

最初に近畿日本鉄道の近鉄郡山駅へ集合し、大和郡山城と郡山城下町を順に巡りました。始めに訪れた大和郡山城は、明治時代初期に入札と破却の処分がなされ、天守閣や二の丸を構成するほぼすべての建築物が軒並み解体されていましたが、本丸には柳沢神社が復元され、また二の丸には復元された追手門と櫓がそれぞれ立地していました。その他にもいくつかの門や櫓が残されている。随所から戦国時代からの築城の歴史とその遺構を感じることができました。また、大和郡山城も明治期に破却された他の城の例に漏れず、城内に公共施設である奈良県立郡山高等学校が存在し、明治期からの公共施設としての城内土地の有効活用の痕跡が現代でもそのまま残されている貴重な例だと実感しました。また、その後に巡検した大和郡山の市街地では、江戸時代から盛んに行われている金魚養殖の様子が多数見受けられ、大和郡山に根付く伝統産業として市民の間でも重要視されているということが観察できました。

次に、最初の集合場所である近鉄郡山駅へ戻り、近鉄電車に乗って大和西大寺駅で乗り換え、近鉄奈良線の終点、近鉄奈良駅へ向かいました。近鉄奈良駅へ到着後、昼食休憩の時間が用意されていました。多くの学生は、近鉄奈良駅周辺の商店街の店舗やチェーン店で昼食をとりました。約一時間の昼休憩を挟んで再度集合して、ならまち周辺の施設へ訪問しました。ならまちは、中世に起源のある歴史的街並みが広がる地域で、街並みの中に飲食店等が開業するようになり、2000年代以降には観光客が増えています。

「元興寺」では、広い境内と堂内においてたくさんの仏像や展示資料を見学することができ、古都奈良の歴史の長さ、仏教と密接にかかわってきた古代中世の日本の仏教的世界観をよく知ることができました。その後に訪れた「なら工芸館」では、奈良市の周辺地域において昔から盛んに行われてきた伝統的な産業の工法を用いて製作されたたくさんの作品が並んでおり、それらを一つ一つ見て回ることができました。また、展示されているほぼ全ての作品を購入できるという点に非常に驚きました。なら工芸館は、これまで自分自身がプライベートで訪問してきた他の美術館や工芸館などと異なり、展示品自体を販売するという手法において他にはない新しい工芸館の形であると感じました。

もう一つ、印象に残った場所は「ならまち格子の家」です。この施設は、昔ながらの建築方式が豊富に残っている住宅を展示施設として公開しており、戦前の庶民の生活風景を彷彿とさせる家のづくりであり、大正期から存在する私の祖母の実家と非常に近い雰囲気を残すところが多くあり、自分にとって非常に懐かしく、安心する空間でした。また、この施設は翌日から修復工事のために一時閉館すると聞き、前日に訪れられて非常に良かったと感じました。

最後に、ならまちから興福寺、奈良公園へと移動し、奈良公園内にある奈良国立博物館の前で二回生の学生による最後の解説と野間先生による解説が行われ、本巡検は解散となりました。

本巡検の舞台となった奈良県の奈良市と大和郡山市は、大阪の近郊都市として発展してきた奈良県の各都市であるが、一方で古都奈良の風情を至る所に残しており、現代と中世の融和した景観が、多くの日本人のみならず、近年では多くの外国人の心をも打っているのであろうと実感できました。

(かまがたに りょう：本学2回生)



興福寺での集合写真

北陸新幹線敦賀開業に伴う観光への効果と沿線地域の変容

—福井県を中心に—

浅野 祐斗

1. はじめに

東京オリンピックと同じ年の1964年10月1日、日本で初めての高速鉄道である東海道新幹線が東京—新大阪間で開業した。新幹線は速達性、快適性とも非常に優れており、日本の公共交通機関として、なくてはならない存在となった。本研究では、2024年3月16日に福井県敦賀まで延伸した北陸新幹線を取り上げ、主に開業前後の福井県内での交通シェアの変化、駅周辺の整備、この2点について考察した。

2. 中京圏と北陸を結ぶ高速バス需要の増加

北陸新幹線敦賀延伸によって東京圏へのアクセスが向上した一方で関西圏や中京圏へは、敦賀で新幹線と在来線の乗り換えが発生し、運賃が値上げされた。中京圏との移動においては高速バス需要が大きく増加に転じた。特に新幹線が開業してもあまり短効効果が得られない名古屋と福井県を結ぶ高速バスの需要が高まっている。

毎日新聞（2024年5月17日付）によると、名鉄バス・京福バス・福井鉄道・ジェイアール東海バスの4社が共同で運行している名古屋—福井間の高速バスにおいて、2024年3月の利用者は1万2966人で、昨年3月の

9073人から40%以上増加した¹。2023年12月に開業を見据え1日8往復から10往復に増便したようであるが、1便あたりの平均乗客数も増加しており、今回の開業を見越した増便は功を奏しているように考えられる（図1、図2）。名古屋—福井間の所要時間は約3時間で片道料金は3600円である。北陸新幹線と特急しらさぎを利用した場合は約2時間であるが、片道指定席利用で6960円かかるため高速バスの2倍近くの運賃がかかる。そのため、安く移動をしたいという若者や敦賀での乗り換えを面倒に思う層が高速バスに流れたのだと考えられる。

3. 敦賀市におけるシェアサイクル利用の増加

新たな交通手段も出現した。敦賀市では2020年からシェアサイクルのサービスを開始した。料金形態は最初の60分220円、60分を超えると30分ごとに110円ずつ加算される仕組みとなっている。地元の方々向けに月額会員のサービスなどもある。サービス開始当初は、ポートが①敦賀駅、②白銀交差点、③気比神宮前、④キッズパーク敦賀、⑤敦賀市立博物館、⑥おさかな通り、⑦きらめきみなと館、⑧敦賀赤レンガ倉庫、⑨人道の港敦賀ムゼウムの9か所だった。その後、2022年

福井 → 名古屋行き												
乗車のみ	あわら湯のまち駅	発	-	-	-	-	-	-	15:10	-	-	-
	三国駅	#	-	-	-	-	-	-	15:25	-	-	-
	福井駅東口	#	6:00	7:00	8:00	10:00	12:30	14:30	16:30	18:00	19:00	20:00
	鯖江	#	6:20	7:20	8:20	10:20	12:50	14:50	16:50	18:20	19:20	20:20
	越前たけふ駅	#	6:30	7:30	8:30	10:30	13:00	15:00	17:00	18:30	19:30	20:30
降車のみ	敦賀	#	7:00	8:00	9:00	11:00	13:30	15:30	17:30	19:00	20:00	21:00
	名古屋駅(新幹線口)	着	8:50	9:50	10:50	12:50	15:20	17:20	19:30	20:50	21:50	22:50
	名鉄バスセンター	#	9:00	10:00	11:00	13:00	15:30	17:30	19:40	21:00	22:00	23:00

※「三国駅」「あわら湯のまち駅」発は、土・日・祝日および特定日のみ運転

図1 高速バス時刻表 福井→名古屋
(福井鉄道ウェブサイトより引用)

名古屋 → 福井行き												
乗車のみ	名鉄バスセンター	発	7:00	7:50	10:00	12:00	13:30	15:00	16:00	18:00	19:00	20:00
	名古屋駅(新幹線口)	#	7:15	8:05	10:15	12:15	13:45	15:15	16:15	18:15	19:15	20:15
降車のみ	敦賀	着	9:05	10:05	12:05	14:05	15:35	17:05	18:05	20:05	21:05	22:05
	越前たけふ駅	#	9:36	10:36	12:36	14:36	16:06	17:36	18:36	20:36	21:36	22:36
	鯖江	#	9:43	10:43	12:43	14:43	16:13	17:43	18:43	20:43	21:43	22:43
	福井駅東口	#	10:00	11:00	13:00	15:00	16:30	18:00	19:00	21:00	22:00	23:00
	三国駅	#	-	12:00	-	-	-	-	-	-	-	-
	あわら湯のまち駅	#	-	12:15	-	-	-	-	-	-	-	-

※「三国駅」「あわら湯のまち駅」へは、土・日・祝日および特定日のみ運転

図2 高速バス時刻表 名古屋→福井
(福井鉄道ウェブサイトより引用)

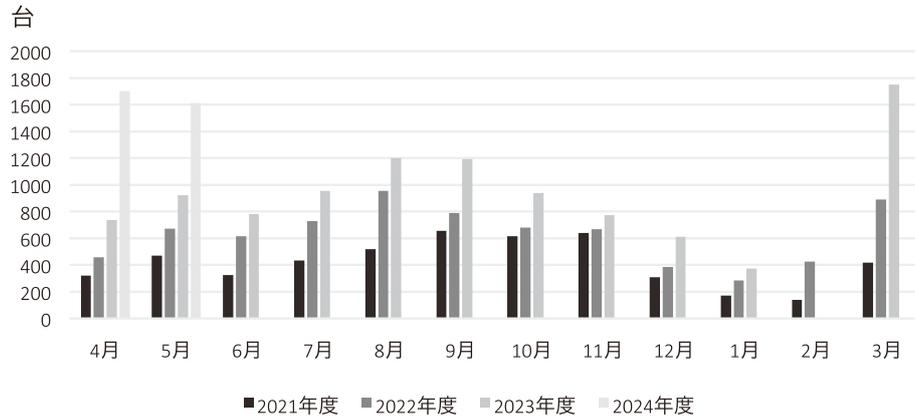


図3 敦賀駅シェアサイクル月別利用台数
(敦賀観光協会提供資料を参考に作成)

6月には、⑩気比の松原、⑪日本海さかな街、2023年3月には⑫敦賀市役所、2023年10月には、⑬柴田氏庭園、⑭敦賀市総合運動公園、⑮西福寺の6か所が増設され、現在の15か所になっている。

敦賀観光協会への聞き取りによると、「年々利用が増えており、特に北陸新幹線開業以降は利用が急激に増えシェアサイクル事業は好調」とのことだった。これは、敦賀市内の観光地が敦賀湾周辺に集積しているため、レンタカーやタクシーを利用するよりも料金を抑えることができ、移動が便利だからではないかと考える。図3は、①敦賀駅のシェアサイクル月別利用台数を示したものである。サービス開始以降徐々に利用が増加してきているが、北陸新幹線が開業した2023年度3月以降、急激に利用台数が増加していることがわかる。また、敦賀市交通政策課への聞き取りによると、2023年の4月5月の利用台数が1659台であったのに対して、2024年4月5月は利用台数3317台と2倍に増えている。ちなみに冬季に著しく利用が落ち込んでいるのは、積雪のためである。

4. 越前たけふ駅開業に伴う空間の変化

北陸新幹線敦賀延伸によって福井県内には4つの新幹線停車駅ができ、駅および駅周辺の整備も進んだ。商業施設、駐車場、ホテルのほか観光客や市民にむけた複合施設も見られる。

たとえば越前たけふ駅は北陸新幹線の単独駅として、北陸本線武生駅から東に約3kmの位置に建設された。駅前には、越前市内では初となる道の駅「越前たけふ」の計画も始まり、新幹線開業の1年前にあたる2023年の3月にオープンした。そのほか、駅西側に駅前広場や多目的広場、駅東側にはパークアンドライド駐車場を整備し、これらの施設は道の駅「越前たけふ」同様に2023年3月に完成し、供用が開始された。駅西にある道の駅駐車場と駅東にあるパークアンドライド駐車場合わせて約600台の車を収容することができ、しかも駐車料金は

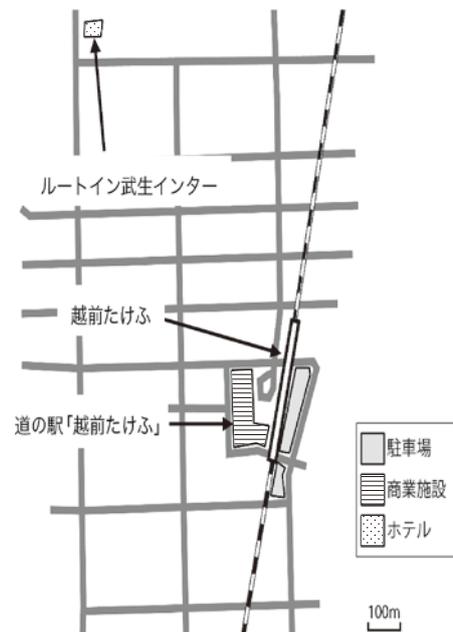


図4 越前たけふ駅周辺地図
(地理院地図より作成)

無料で最大7日間停めることができる。これが呼び水となり、長期旅行をする地域住民を中心に当初の想定を上回る勢いで利用が広がっている。市が5月に行った利用者アンケートでは、約9割は新幹線と交通広場を発着する高速バスを利用するための駐車していたことがわかった。新幹線停車駅ができたことにより、駅周辺の土地利用が大きく変化しただけでなく、人・モノ・サービスの新たな拠点が創出されたと言えよう。

付記：本稿は2025年に提出した同名の修士論文の一部である。

注

1 毎日新聞、2024年5月17日付。

参考文献

榊原素夫(2020)：『新幹線は地域をどう変えるのか』、古今書院。
毎日新聞：『福井・新幹線延伸2カ月「敦賀乗り換え不便」関西、中央方面 交通手段変更目立つ』、2024年5月17日付。

(あさの ゆうと：2025年3月本学研究所・博士課程前期課程修了)

福島県会津若松市での実習調査

上野 桜祐・中所こまち

2024年度の実習調査は、10月1日（火）～10月5日（土）に福島県会津若松市を対象地域として、筒井先生、松井先生、ティーチングアシスタントの劉さんの指導のもとで実施され、大学院生5名を含め、37名参加しました。

春学期は、現地での聞き取り調査・アンケート調査を実施するために、各班、先行研究を調べ情報収集したり、アポイント先を探し連絡したりし、現地調査の事前準備を進めました。また、各班、夏季休業期間中に必要な資料の作成と調査先への協力依頼を終えました。今回の調査は「農業」「産業」「市内観光」「郊外観光」「交通・防災」「都市開発」の6つの班に分かれて調査を行いました。

その中で私たち農業班は「会津若松市の農業の現状と課題」をテーマに観光農園、スーパー・直売所、農業災害の3つに分かれて調査を行いました。事前にアポ取りをしていた場所から前日に断られるなどのトラブルがありました。現地でなんとか挽回することができ、想定よりも非常に充実した調査になりました。

観光農園班は、会津若松の中でも農業が盛んな北会津に重点を置き調査をしました。調査としては、実習時に観光農園として営業している2つの観光農園へ行きました。1箇所目は、「よよぜん」に行きました。私たちが調査に行く時よりも8月、9月の方が来園されるお客様が多いと考え、事前に観光客へのアンケート用紙を置かせていただいていたため、それらの回収と代表の方への聞き取りを行い、ぶどう狩りの体験を行いました。アンケートに関しては、事前に100部送っていましたが夏休み中に無くなったとの連絡があったため、追加で送らせていただき、予定より多くのアンケート結果を得ること

ができました。代表者の新田さんは仕事が忙しい中、私たちが調査に来る日に備えて、売上や来客数等のいくつかの資料を用意してくださっており、詳しい数値をお聞きすることができました。

2箇所目は、「がぶりガーデン」に行きました。ここでは2日かけて調査を行いました。1日目は代表の方への聞き取りを行い、りんご・プルーン・ぶどう狩りを体験しました。2日目は実際に農園に来たお客さんへのアンケート調査を行いました。アンケートに関してはフルーツ狩りと直売所の2つの場所に分かれて計2時間の調査を実施しました。初めは声をかけることに緊張していましたが、次第に慣れ、多くの方にアンケートを行うことができました。代表の星さんはとても気さくな方で、聞き取りということで改まっていた私たちを会話中に終始楽しませてくださりました。また、おもてなしの精神が溢れており、調査中にはシソジュースや桃、もつ煮込みなどをいただいたり、現在行っているすべての果物のフルーツ狩りをさせていただいたり、帰りにはプルーンとブドウをお土産としていただいたり、非常に良くしていただきました。

スーパー・直売所班は、流通について調べるため、現地のスーパーマーケット、八百屋、農産物直売所を訪れ、店舗調査や聞き取り調査を行いました。店舗調査では、野菜の産地や生産者の調査や陳列、販促の仕方などが店舗の形態で違いがあるかを調査しました。聞き取り調査では、各形態に置いてどのように商品を仕入れているか、農家とどのようなやりとりをしているかについてお話を伺いました。

また、班全体で会津若松市役所農政課を訪れ、農業のより詳細な実態や農業以外の分野との関わりについてお話を伺いました。このように、実際の調査では各自が協力しあっていくことで円滑に進めることができました。

今回の調査は、自分たちが主体となって調査を進めていくことが初めての経験でしたので、計画を立てて実施していくことの難しさを実感するものでした。特に調査を行う中で、計画していた通りに進まず何度も変更を強いられたことが最も苦しい経験でした。しかし、会津若松市の方々の温かさや優しさを強く感じられたことや調査での情報収集方法や集まったデータの使用方法について学べたことは今回の実習がなければできなかった経験だと感じています。これらの学びを今後の卒業論文、日々の生活に活かしていきたいと思います。



会津若松市役所でのオリエンテーションの様子

（うへの おうすけ、なかどころ こまち：本学3回生）

大学院生の研究業績 (2024年4月～2025年3月)

【論文・書評・書籍等】

- 楊 珺屹 「国境の島嶼対馬—禁足地オソロシドコロに関する考察—」千里山文學論集, 第4号, 17-49頁, 2024年11月.
- 劉 天星 「中国・重慶市の中心城区における近代歴史的遺産の保存と活用」史泉, 第141号, 1-22頁, 2025年3月.
- 徐 雨辰 「オランダ・明鄭時代における台湾南部の製糖業の発展」史泉, 第141号, 23-44頁, 2025年3月.
- 郝 玉朋 「(書評) 林上著『都市と港湾の地理学』」史泉, 第141号, 46-51頁, 2025年3月.
- 肖 逸欣 「(書評) 土屋純著『地理学で読み解く流通と消費—コンビニはなぜ集中出店するのか—』」史泉, 第141号, 52-58頁, 2025年3月.
- 松井幸一・楊 珺屹 「集落研究における集合的記憶の活用: 沖縄県今帰仁村謝名集落を事例に2」關西大學文學論集, 第74巻, 第1-2号, 85-98頁, 2024年9月.

【学会発表】

- 楊 珺屹 「沖縄県国頭郡今帰仁村謝名における集合的記憶の構築—高齢者と高校生のインタビューを通じて—」2024年日本人文地理学会, 口頭発表, 2024年11月.
- 松井幸一・楊 珺屹・杉本珠美 「グスク空間における UAV レーザー測量の利用と課題—旧志慶真ムラ周辺を事例に一—」2024年日本人文地理学会, 口頭発表, 2024年11月.
- 郝 玉朋 「中国における京杭運河輸送の役割に関する経済地理学研究—済寧地域の優位性に注目して—」史学・地理学大会, 関西大学, 口頭発表, 2024年12月.
- 肖 逸欣 「中国におけるコンビニエンスストアの発展と分布について—京津冀地区を例に一—」史学・地理学大会, 関西大学, 口頭発表, 2024年12月.
- 虞 嘉誠 「地方都市における公共交通ネットワークの存続可能性の評価—ネットワーク型コンパクトシティとの関わりに注目して—」史学・地理学大会, 関西大学, 口頭発表, 2024年12月.
- 杉本珠美・楊 珺屹・松井幸一 「グスク空間 3D分析の成果と課題」史学・地理学大会, 関西大学, ポスター発表, 2024年12月.

2024年度 卒業生・修了生 からのひと言

〈卒業生〉

生森海也

4年間お世話になりました。この専修で学んだことは自ら求める答えを自らの足で見つけるといことです。社会人になってこの精神を基に邁進していきたいと思います。

井上裕貴

地理学の学びは今後にも必ず役に立つと思います。後輩達にはぜひ地理学の学びの面白さを感じていただければ嬉しいです。

井村 光

地理専修ではたくさんの思い出を作ることができました。就活や卒論など大変なこともありますが、先生方の助言や同輩の励ましがあるのできつとなんとかなります。今はたくさん遊んでおきましょう！

大東若菜

地理のみんなと協力しながら、いい卒業論文の作成といい思い出作りをしてください。

藤見創太

3年生での熊本巡検がとて素晴らしい思い出です。自分達で調べることの難しさを感じながら楽しさを実感出来、ここで得た経験を卒業論文で活かすことが出来ました。卒業論文執筆は大変でしたが、黒木先生やゼミの同期の皆にアドバイスをいただきながら完成させることが出来ました。本当にありがとうございました。

川口祐輝

地理学専修は、フィールドワークとしてたくさんの方に巡検として訪れることができ、他の専修ではできない経験ができた。また、その中で共に過ごした専修の仲間、熊本実習最後の報告書提出までやりきったグループの仲間など、周りに恵まれて楽しく専修生活を送ることができ、感謝しています。また、卒論提出までお世話になった松井先生をはじめ、関わってくださった先生方に感謝を申し上げたいと思います。

里見 玲

地理学は楽しいです！色々取り組めると嬉しいです！頑張ってください！

大倉基金の活用について

今年度から卒業生の大倉俊様からのご寄付を大倉基金として運用しています。今年度は主に以下の項目に利用させていただきました。

- ・実習報告書印刷費用の一部補助
- ・国際交流プログラム派遣（ベトナム研修）のプログラムフィー、引率費用の一部補助
- ・実験室・資料室整理のための人件費（学生アルバイト）

鈴木美里

地理学教室では、フィールドワークの楽しさを学びました。さらに、学びを高め合える仲間たちとも出会えました。卒業後も、色々な場所に足を運んでいきたいと思いをしています。

瀬木優美子

これまでの地理学での学びを通して、多角的・多面的な知識を身につけることが出来ました。この学びを今後の社会人生活にも活かしていきたいです。本当にありがとうございました！

立岡なつみ

巡検や実習など貴重な学びの機会をいただき、素敵な仲間とともに充実した4年間を過ごすことができました。ご指導いただいた先生方本当にありがとうございました。

田中利佳

小さい頃から地図や天気が好きで、何となく入った専修だったので、優しい先生方をはじめ、アットホームな雰囲気で居心地抜群でした。ありがとうございました！

西山奈菜

3年間お世話になりました。地理学に触れて、熊本での実習など、たくさんの貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。

平井杏周

この度無事卒業することができました。思い返すと地理学専修で過ごした時間は大変濃く、あつという間だったと感じています。特に熊本実習は忘れられない思い出となりました。皆さんありがとうございました。

藤田愛子

地理学専修での授業や実習を通して、視野を広げると共にたくさんの楽しい思い出を作ることができました。ありがとうございました！！

前谷駿輔

実習調査や卒論では、先生方や同級生の頭を悩ませていたと思います。本当に申し訳なかったと思います。地理学・地域環境学専修で過ごした3年間はとても楽しく、充実したものでした。ありがとうございました。

山本奈穂

地理学教室で国内だけでなく海外にも行き、貴重な経験を積むこと

〈同窓会事務局ニュース〉

- 2024年12月14日(土)12時45分から同窓会幹事・協議委員会、17時から関大地理同窓会総会を開催いたしました。
- 2025年度の行事予定は以下の通りです。変更などありましたら随時、HPでお知らせいたします。9月28日(日)秋の日帰り巡検、12月6日(土)史学・地理学会大会(学部生・院生による実習調査ポスター発表)、12月13日(土)2025年千里地理学会大会。
- 今年度の卒業生の主な進学・就職先は以下の通りです。(50音順)
あいおいニッセイ同和損保、オークマ株式会社、鹿島建設、株式会社アイシン、株式会社イシダ、近畿地方整備局、キンキ道路(株)、スタンレー電気株式会社、ゼンショーホールディングス、東海旅客鉄道株式会社、名村造船、西日本旅客鉄道、名鉄観光サービス(株)、渡辺パイプ株式会社。
- 2024年度の年度幹事は立岡なつみさんと吉村虎太郎さんに決まりました。
- 次の方々からご寄付をいただきました。吉兼崇博、渡邊 登(50音順、敬称略)
- 文学部の改組にともない2026年度より地理学専修と世界史専修は合併し、世界史・地理学専修となります。関大地理同窓会はこれまでどおり地理学コース単独で運営をおこない、千里地理通信も地理学コース単独で刊行いたします。
- 退職された先生方の資料整理をおこなっています。調査写真・記録などの引き取りをご希望の方は資料室をご案内いたしますので事務局までご連絡ください。
- 同窓会通信の執筆を募集しております。1ページ1600～1800字程度、半ページ800字程度です。執筆いただける方は教室メールアドレス[kandaichiri@gmail.com]までご連絡ください。また、会費の納入状況などのお問合せも上記メールアドレスにお問い合わせいたします。

2025年度教室行事予定

(2025年4月～2026年3月)

4月10日(木)	専修全体オリエンテーション A601 教室 12:15～13:00
5月10日(土)～11(日)	一泊バス巡検(姫路市・たつの市方面) 土屋・筒井担当
7月6日(日)	大学院M・D入試(秋学期入学)、春学期大学院M学内進学試験
7月19日(土)	大学院合同演習(梅田キャンパス)
9月19日(火)	春学期卒業式・修了式、秋学期入学式
9月25日(木)	卒業論文中間発表会
9月28日(日)	日帰り巡検(宝塚市・西宮市) 卒業生も参加可能、土屋・筒井担当
9月30日(火)	～10月4日(土) 地理学実習調査(愛媛県松山市) 土屋・筒井担当
10月5日(日)	大学院M・D入試、大学院M学内進学試験
12月6日(土)	関西大学史学・地理学会大会(関西大学) 卒業生も参加可能
12月13日(土)	第7回千里地理学会大会(関西大学) 卒業生も参加可能
2月21日(土)	大学院M・D入試、大学院M学内進学試験
3月19日(木)	卒業式
3月21日(土)	学位授与式

関大地理同窓会 令和6年度会計報告

(収入)	(円)
一般年会費(3名)	3,000
新入生会費(31名)	31,000
卒業生会費(20名)	40,000
長期割引会費(2名)	10,000
終身会費(2名)	10,000
寄付(2名)	15,000
計	109,000
(支出)	(円)
千里地理通信90号発送	9,964
印刷用ラベル	3,630
新歓コンパへの補助	24,200
院生室雑費	220
院生室PC廃棄	1,870
同窓会事務局アルバイト	5,000
計	44,884
(収支残高)	(円)
前年度繰越金	488,602
収入-支出	64,116
計	552,718

*千里地理通信90号の発送は前年度締め日以降の支出のため今年度に記載

*千里地理通信91号の印刷代・発送代には大倉氏からの寄付を充てた

教室だより

■卒論中間発表会

9月26日(木)9時30分から17時までA棟301会議室で実施しました。発表者卒業論文を提出予定の23名でした。

■秋の日帰り巡検

9月29日(日)に秋の日帰り巡検が開催されました。「大和郡山市と奈良市 一奈良盆地北部の自然、産業、歴史景観」というテーマで、電車を乗り継ぎながら、徒歩でまわりました。近鉄郡山駅(10時)～郡山城址～紺屋・町家物語館～金魚ストリート～近鉄郡山駅～近鉄奈良駅～東向商店街～もちいどのセンター街～ならまちセンターで一時解散、各自昼食～奈良町散策(なら工芸館～庚申堂～ならまち格子の家～吉田蚊帳～元興寺～清酒春鹿醸造元～奈良ホテル～興福寺)～奈良公園～奈良国立博物館～解散。昨年度後退職された野間晴雄先生、OBの矢野司郎さん、吉兼崇博さんが参加されました。参加者は計60名。

■地理学・地域環境学実習

10月1日(火)～5日(土)に実習調査を福島県会津若松市で実施しました。3回生大学院生30名、博士前期課程1年次生4名、ティーチングアシスタント1名(劉天星)、教員2名(筒井・松井)の計37名の参加でした。その調査報告書『福島県会津若松市の地理』が2025年3月に刊行され、4月に全国の地理学教室や関係者・関係機関に発送の予定です。

■ベトナムフィールドワーク研修

2025年3月8日(土)～3月16日(日)に、教員(黒木、筒井、松井)引率のもと、2年生から4年生までの計11名の学生が参加しました。行程の前半はハノイ、後半はホーチミンでした。それぞれ、ベトナム国家大学ハノイ校とトゥザットモット大学を訪問し学生と交流しました。なお、2025年2月19日(水)～2月27日(日)には、ベトナム国家大学ハノイ校の先生方3名、学生8名が訪日され、20日に関西大学で合同セミナーを実施するとともに、大阪府をはじめとして京都、奈良、神戸などを巡検しました。ベトナム研修に参加する学生がベ

トナム人学生の巡検の案内役を務めてくれるなど、双方向の国際交流を行うことができました。

■第4回千里地理学会大会・卒論セミナー

12月14日(土)第1学舎E503会議室で、12時30分から13時30分まで現3回生を対象に卒論セミナーを開催しました。担当は黒木教授でした。そのあと14時から17時まで、同じ教室で、第4回千里地理学会大会を開催しました。

発表題目は以下の通りです。大学院生(王競東)「会津若松市実習調査中間報告」、劉天星(大学院生)「中国重慶市の都市発展史と現在の都市景観に関する研究」、吉兼崇博(和木町教育委員会)「公務員の職務における場所と状況把握の大切さ」、前迫ゆり(奈良佐保短期大学・教授、本学非常勤講師)「人と自然の共生と葛藤—地域生態系が育む生物多様性の保全をめざして」。懇親会は第1学舎A棟の食堂で実施しました。

■集中講義の実際

2025年1月22日(水)～25日(土)に大学院博士前期課程向けの「自然地理学特別研究」に手代木功基先生(金沢大学)にご出講いただきました。

■教員の国外出張(2024年10月～3月)

黒木貴一：ベトナム2025年3月8日～16日(フィールドワーク研修引率)。土屋 純：2025年3月8日～16日インド(科研調査)。筒井由起乃：ベトナム2025年2月27日～3月5日(フィールドワーク研修引率)。松井幸一：ベトナム2025年3月8日～16日(フィールドワーク研修引率)。

■2025年3月の卒業生・修了生・学位取得者

本年度の卒論提出者は22名、大学院博士前期課程の修了者は2名です。全員が卒業予定です。卒論・修論題目は秋号に掲載します。2025年2月8日に実施した口頭試問の結果、立岡なつみさんの「神戸市東灘区岡本地区地車運行における地域構造変化と新規担い手の獲得」が最優秀論文となり、卒業式のときに学部長表彰をうけます。

ができました。在校生のみならずこの機会にどんなことにも挑戦して実りある学生生活を送ってください。

吉村虎太郎

前半はコロナ禍であまり思い出を作れませんでした。3、4年は色々させていただきました。これからも未永い発展を願っております。

和谷 亮

最初は内容が難しく、人と打ち解けるのも不安でしたが、内容の楽しさと優しい教授陣のお陰で充実した学生生活を送ることが出来たと思います。ありがとうございました。

藤浪可奈恵

地理学専修で地域についての学びを深めることができました。卒業後も地理学の視点を活かしていきたいです。ありがとうございました。

森本桜子

観光に興味をもちこの専修を選びましたが、学ぶほどに地理学の多様性を知り、様々な分野に関心が広がりました。フィールドワークでは、学んだ知識や地理学の視点を活かしながら地域をみることでできて楽しかったです。ありがとうございました。

朴 智那

まじめにすれば、その終わりに結果があると思います。頑張りましょう。

〈修了生〉

浅野祐斗

関大に入学してから6年の月日が流れ、気が付けば院進していました。そんな大学院生活も残すところわずかなり、時が経つ早さを実感しています。先生方はじめ、私に関わってくださったすべての方々、本当にありがとうございました。

田原和真

2年間お世話になりました。先生方や大学院生、学部生の皆さんに支えていただき、充実した2年間になりました。また学会運営などに関わるなど貴重な経験もできました。今後、この経験を活かしていきたいと思っています。

会津若松市の地理 地理学実習報告書(49)

はしがき

- I 地域の概観
- II 会津若松の農業と課題
- III 会津若松市の産業
- IV 会津地方における地域交通と防災
- V 会津若松市の市内観光
- VI 会津若松郊外観光の実態
- VII 会津若松市における都市開発

各章の要旨

- 調査日誌
- 編集後記
- 関西大学史学・地理学会2024年度大会ポスター発表資料
- 英文目次
- 奥付

全306頁。

2001年の人文地理学会大会後の懇親会でのことでした。「于亜です」と自己紹介する私に、「餃子文化を研究していますね。面白いテーマですね」と声をかけてくださった先生がいらっしゃいました。これが野間晴雄先生との最初の会話であり、また、関西大学とのご縁の始まりでもありました。

振り返れば、2000年以前は地理学の分野において、食文化に関する研究は非常に少ない状況にありました。そのような中で、野間先生のお書きになった「食文化要素からみた近江・伊賀・伊勢三国国境地帯の意義：淡水魚貝類摂取と正月の行事食を指標にして」(『滋賀大学教育学部紀要』No.41, pp.283-301, 1991)は単なる食文化研究の枠を超え、論文構成、図・表の形式、そして日本語表現など多岐にわたり示唆に富むものでした。この論文は、私にとってただの先行研究ではなく、研究を進めるうえでの羅針盤とも言える存在でした。博士課程の苦しい日々において、この論文はまさに私の支えとなりました。研究が行き詰まり、出口が見えなくなることが何度もありました。そのたびに私はこの論文を繰り返し読み返しました。ページをめくるたびに新たな発見があり、悩んでいた問題のヒントを得ることができました。この論文との出会いがなければ、私の研究は今の形にはなっていなかっただろうと思います。

私と関西大学のご縁は、数々の出会いと経験を通じて深まっていきました。その中でも、いくつかの出来事が特に心に残っています。

まず、野間先生のお誘いを受け、協力研究員として「環東シナ海・環日本海沿岸域の文化交渉と歴史生態をめぐる学術的研究」(2010～13年度日本学術振興会科学研究費 基盤研究(A) 課題番号 22242028) チームに参加できたことです。そのチームでは、専門的な知識だけでなく、他者と協力しながら課題に取り組む姿勢を学びました。何気ない日常会話の中で生まれる新しいアイデアや、議論を通じて深まる理解が、私の探究心を刺激しました。

また、2012年10月27日に地域連携の一環として行われた「ひらめき☆ときめきサイエンス—粉もんから東アジアがみえる」における高校生たちとの餃子作りも、私にとって忘れられない特別な思い出です。その日、広々とした教室で、具材を混ぜる人、皮を伸ばす人、餃子を包む人と、それぞれが役割を担いながら調理を進めました。どのくらい具を入れれば包みやすいのか、形を変えたら焼き上がりがどう変わるのかといった純粋な疑問や工夫を重ねる中で、高校生たちとの交流を深めることができました。また、小麦粉から生地をこねる過程では、手作業の温もりを感じながら、協力し合う喜びを共有する場面もありました。特に印象的だったのは、完成した餃子を目の前にした高校生たちの満面の笑顔です。今でもその笑顔を鮮明に思い出すことができます。餃子作りという活動が、これほどまでに深い感動をもたらすとは思ってもいませんでした。将来の彼らがこの経験を思い出し、人とのつながりや挑戦の楽しさを実感してくれることを願ってやみません。

さらに、私は大学院の非常勤講師として授業を担当するという貴重な機会にも恵まれました。主に地理学の授業を担当しましたが、哲学や文化交渉学を専攻する院生たちも受講してくれ、多様な学問領域の視点を共有する場となりました。彼らとの対話を通じて、地理学と他の学問分野が交わることで生まれる新たな発見や洞察に触れることができました。こうした経験は、異なる専門分野を結びつける可能性について深く考えるきっかけとなりました。

そして、忘れることができないのは、コロナの時代に経験した出来事です。パンデミックによって大学の活動が制限される中、オンライン授業やリモートでの研究が進む一方で、不安や孤独を感じる日々もありました。しかし、そんな時期だからこそ、院生たちの優しさが私を支えてくれました。技術的なサポートやちょっとした励ましの言葉が、どれほど大きな助けとなったことでしょう。その温かい支えがあったからこそ、困難な時期を乗り越えることができたのです。

野間先生のお誘いを受け、これまで「M文化地理学研究B」の非常勤講師を8年間勤めてきましたが、定年ということでそれも来年度で最後になりました。非常勤講師としての8年間は、単なる「教える」という行為にとどまらず、学生たちとともに学び、成長する時間でした。

実際に初めて関西大学を訪れた日のことは、今でも鮮明に覚えています。広々とした開放感あふれるキャンパス、真剣に学ぶ学生たちの姿、そして何よりも、訪れる者を温かく迎え入れる穏やかな雰囲気印象的でした。その美しいキャンパス風景も、私にとってかけがえのない思い出の一部となっています。特に秋のキャンパスでは、尚文館へ向かう道沿いに色づく木々と、地面を彩る落ち葉が心を癒してくれました。秋風の中を歩くだけで、自然の美しさに触れ、穏やかな気持ちになったことを思い出します。関西大学を離れることには一抹の寂しさを感じますが、非常勤講師として8年間歩んできた道のりは、私にとって言葉にできない価値をもたらしました。

人生の中で「ご縁」と呼べるものは数多く存在します。その中でも、私と関西大学とのご縁は、特別な意味を持っています。関西大学との出会いは、私にとって人生を大きく変えるきっかけとなりました。この「ご縁」に感謝し、私自身が次の世代に新たな「ご縁」を提供できる存在になれたとしたら、これ以上の喜びはありません。

(う あ：大手前大学教授)

千里地理通信 第92号

2025年3月19日 発行 (300部)

関西大学地理学・地域環境学教室
関大地理同窓会

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

関西大学文学部地理学・地域環境学教室内
編集担当：土屋 純

TEL：06-6368-1121 (内線 4890：大学院生室)

e-mail：kandaichiri@gmail.com

http://www2.kansai-u.ac.jp/kugeoenv/

郵便振替：大阪 00970-4-81149